

土石防だより



春風薫る（岩本山）

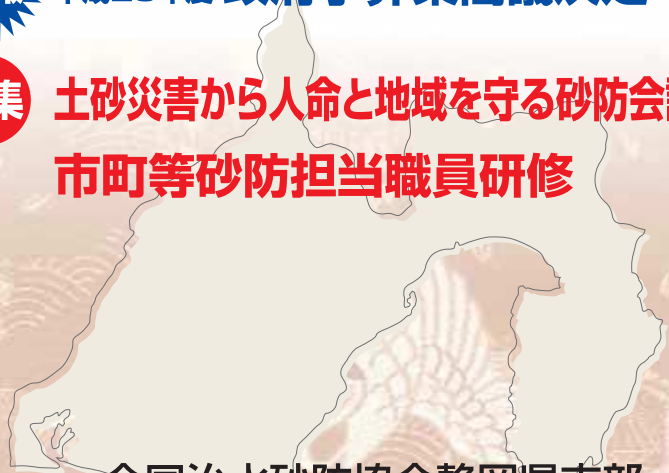
年頭の御挨拶	2
平成23年度政府予算案閣議決定	3
2010年しずおかの砂防10大ニュース	
全国治水砂防促進大会が開催される	4
協会支部による「大谷崩見学会」の開催	5
「丸子芹が谷町地区」砂防サポートプログラム調印	
市町等砂防担当職員研修が開催される（岐阜県大垣市）	6～7
「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」策定状況	8
台風9号(平成22年9月8日)における小山町の警戒避難対応	
由比地すべり対策事業について	9
インフォメーション	10～11
お知らせ	12



平成23年度 政府予算案閣議決定



土砂災害から人命と地域を守る砂防会議
市町等砂防担当職員研修



全国治水砂防協会静岡県支部

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 原田 英之

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様には、日頃から当支部の活動に対しまして、御支援と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年は、一昨年より多い57件の土砂災害が県内各地で発生しましたが、幸いにして住民の死傷者はありませんでした。改めまして被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。特に、9月8日の台風9号来襲時の集中豪雨により、小山町では39件の土砂災害が集中して発生した状況を目の当たりにしました。現在、上流に堆積した土砂の再流出防止のため、県により砂防堰堤の設置が進められるなど、早期の災害復旧・復興が進められています。

地域住民の生命を預かる我々市町村長も、国・都道府県と連携し、災害の度に被害者が出ないよう全力を挙げて対応していますが、昨年全国では1,143件の土砂災害が発生し、残念ながら10名の方々の尊い命が犠牲となっております。

静岡県は、県総合計画（平成22～25年度）を策定中ですが、土砂災害につきましては、「土砂災害による死者数0人」を目指して、土砂災害防止施設の着実な整備に努めるとともに、土砂災害警戒区域等の指定、土砂災害警戒情報の气象台との共同発表、避難勧告等の判断・伝達マニュアルの整備、土砂災害防止に関する知識の県民への普及など、早期の住民避難を促すソフト施策の充実を図り、総合的な土砂災害対策に取り組んでいます。

国においては、この夏に視察した岩手・宮城内陸地震による被災を契機として、土砂災害防止法を改正し、大規模な土砂災害が急迫している状況においては、国又は都道府県が緊急調査を行い、被害の想定される区域・時期の情報を市町村へ提供されるようになりました。また、今年度から始まった社会資本整備総合交付金制度が、来年度からさらに変更されるなど、予算システムも大きく変わり、より地方の意向が反映される一方、安全・安心に対する各自治体の考え方・姿勢が一層問われることと思います。

土砂災害防止施設の整備状況が低い中、近年、集中豪雨の頻発、連続雨量の増加などの気候変動も見られることから、いつ本県で悲惨な土砂災害が発生してもおかしくない状況であり、防災に関する情報をいち早く住民に伝えるなど、国・県が提供するソフト施策を早期避難に活用することも、市町の役割であると思います。

「土砂災害による死者数0人」を目指し、今年も砂防関係事業の普及・発展に努めてまいりますので、会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年は平穏な年であるよう祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2010年 しずおかの砂防 10 大ニュース

平成22年は、土砂災害が57件発生 台風9号に伴う集中豪雨により小山町に土砂災害が多発

昨年は、57件の土砂災害がありました。幸いにして、6年連続して人的被害はありませんでした。

9月8日の台風9号は、県東部に記録的な大雨をもたらし、小山町の湯船・柳島地区を中心に、土砂災害が39件発生しました。（小山町の警戒避難対応については、P8で紹介しております。）



「社会資本整備総合交付金」制度が始まる

これまでの国土交通省の国庫補助事業制度が変わって、平成22年度から「社会資本整備総合交付金」制度が始まりました。地方公共団体が作成・提出した社会資本整備総合計画に基づき、毎年度、国は当該交付額を算定して、交付金を交付するものです。次頁のように平成23年度はさらに一括交付金化される予定です。



大谷崩見学会を11月14日に開催

（社）全国治水砂防協会の支援と、国土交通省静岡河川事務所の協力を受け、開催しました。（詳細はP5）

原田新支部長、望月新副支部長が就任

2月に実施した書面決議の結果、全会員から御賛同いただき、原案のとおり承認されました。

平成23年度 政府予算案閣議決定

速報

12月24日、平成23年度政府予算案が閣議決定されました。国土交通省の行政経費等を含む予算額は、国費ベースで対前年度比0.96の約5兆3,770億円です。予算のポイントの内、砂防事業に関するものを示します。

平成23年度国土交通省関係予算総括表(国費)

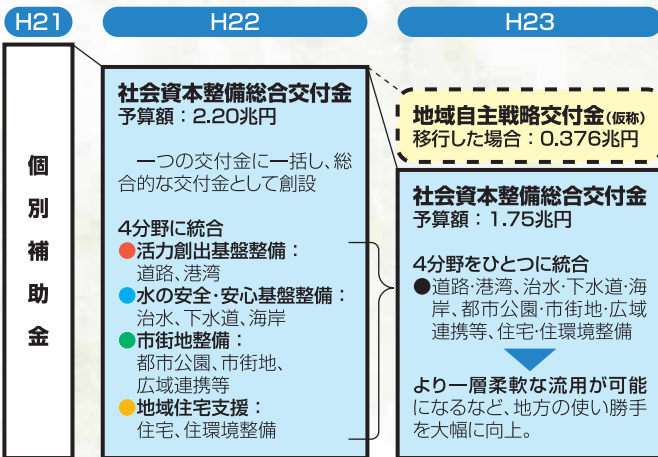
(単位:百万円)

事項	平成22年度 A	平成23年度 B	対前年度 B/A
治水	590,220	568,593	0.96
[地域自主戦略交付金(仮称)]	—	[376,000]	[下記併せ0.97]
社会資本整備総合交付金	2,200,000	1,753,870	0.80
その他(道路・港湾等)	2,068,314	1,957,143	0.95
[地域自主戦略交付金を含んだ場合]	[4,858,534]	[4,655,606]	0.96
公共事業関係費	4,858,534	4,279,606	0.88

1. 沖縄振興開発事業費の国交省関係分を含む。
2. 対前年度との比較を容易にするため、内閣府計上の地域自主戦略交付金(仮称)(全体額512,024百万円)に移行した額を加えた場合の計数を[]書きで表現した。
3. 本表のほか、内閣府計上の地域再生基盤強化交付金 62,000百万円がある。(H22 103,389百万円0.60倍)
4. 計数は、整理の結果、異動することがある。
5. 行政経費等は除く

社会資本整備総合交付金：国土交通省

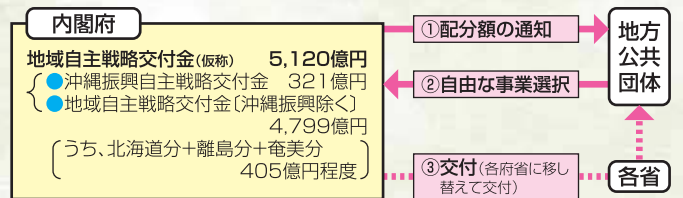
社会資本整備総合交付金の都道府県分のうち3,760億円を「地域自主戦略交付金(仮称)」に移行するとともに、社会資本整備総合交付金の4分野を一つに統合し、地方の自由度・使い勝手を更に向上。



地域自主戦略交付金(仮称)：内閣府

地域の自由裁量を拡大するため、すべての府省が投資補助金の一括交付金化に取り組む。都道府県分は23年度から、市町村分(政令市を含む)は予算額の変動性を勘案し、24年度から導入。

- 各府省の枠にとらわれずに使えるようにする。
- 国の事前関与を廃止し、事後チェックを重視。
- 客観的指標に基づく恣意性のない配分の導入。(条件不利地域等に配慮した仕組みを設ける)
- 当面は、客観的指標だけでなく、継続事業が実施できる配分とするとともに、交付率、地域特例(補助率かさ上げ)、地方財政措置を継続する。
- 対象となる事業の範囲で、自由に事業を選択。ただし、事業規模等の必要な要件を設ける。



口坂本自主防災会(静岡市葵区)が「土砂災害防止功労者」(国土交通大臣表彰)を受賞

全国受賞の8つの個人・団体のうち、同会が受賞しました。緊急連絡網の整備、特色ある防災訓練の実施など10年以上の災害防止への貢献に対する表彰です。



砂防協会会員が岩手県・宮城県砂防事業等を視察

8月26～28日、原田支部長(袋井市長)以下15名が参加し、岩手・宮城内陸地震に伴う復旧事業の視察と、栗原市と一関市の副市長、防災担当幹部職員との意見交換などを行いました。



平成23年度(社)日本地すべり学会第50回研究発表会及び現地見学会の静岡開催が決定

平成23年8月31日～9月2日に静岡市内で行われます。

土砂災害「全国統一防災訓練」を県内34市町で実施

約2,000人が参加し、土砂災害警戒情報の伝達訓練や、避難勧告の発令に伴う避難訓練を行いました。

急傾斜地崩壊対策事業が「静岡県型事業仕分け」に

9月4・5日に県の103事業について行われました。

土砂災害防止月間で広報

あらゆる機会を活用して、重点的に啓発活動を行いました。

※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表しておりません。

「全国治水砂防促進大会」開催される

11月30日に、「土砂災害から人命と地域を守る砂防会議」が砂防会館で（東京都千代田区）で開催されました。

当日は全国から857名が参集し、当支部からも10名の御出席をいただきました。会議に先立ち、鹿児島大学農学部教授の下川氏より、『深層崩壊～しくみと発生場の予測～』と題して特別講演が行われました。

大会は綿貫全国治水砂防協会長の挨拶に始まり、全国地すべりがけ崩れ対策協議会長の泉田裕彦新潟県知事が祝辞を述べ、その後、会員代表者として、鹿児島県南大隅町長と京都府福知山市市長による意見発表が行われました。

最後に、長崎良夫副会長より砂防関係事業の促進についての提言発表があり、満場一致で採択されました。

大会終了後、当支部会員の皆様により地元選出国議員へ、また事務局により国土交通省へ、平成23年度予算の確保に向けて要望活動を行いました。お忙しい中、御出席をいただいた会員の皆様には、心より御礼申し上げます。



綿貫会長の挨拶



下川鹿児島大学教授による特別講演



泉田新潟県知事の挨拶

（社）全国治水砂防協会の提言



静岡県支部の要望

1. 直轄砂防事業の推進

- ・富士山砂防事業：富士山の総合的な活火山対策、大沢川源頭域調査工事
- ・安倍川砂防事業：大谷山腹工、トイグチ沢砂防堰堤
- ・狩野川砂防事業：市山地区砂防堰堤群、大堀田沢砂防堰堤

2. 直轄地すべり対策事業の推進

- ・由比地区直轄地すべり対策事業

3. 県による土砂災害防止施設（砂防、地すべり対策、急傾斜地崩壊対策）の整備とソフト対策の推進への支援・協力

- ・東海地震に備えた防災施設の緊急的な設備
- ・災害要援護者施設を保全する土砂災害対策の推進
- ・市町が行う警戒避難体制づくりや災害に強いまちづくりの基礎となる、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定の推進
- ・国・県・市町が連携し、安全で迅速な避難のための取組の推進

参加市町（10市町10名）

袋井市、河津町、伊豆市、牧之原市、東伊豆町、南伊豆町、函南町、熱海市、伊豆の国市、長泉町



協会支部による「大谷崩見学会」の開催

全国治水砂防協会静岡県支部では、11月14日(日)に『紅葉真っ只中の大谷崩見学会』を開催しました。

この見学会は、県民を対象に、静岡市葵区の安倍川上流域で行われている砂防関係事業の現状や対策等を知ってもらい、土砂災害に対する理解と関心を深めていただくことを目的として、開催しました。

募集では、43名の方から申し込みがあり、当日は中学生以下6名を含む37名の参加者の下、実施しました。

見学会当日は、2台のマイクロバスに分乗し、次の行程で実施しました。

今回のアンケートでは、「砂防事業の必要性や自分達の知らないところでも行われていることが初めて分かった」などの感想もいただき、このような見学会も広報や啓発活動の一つとして非常に有効な手段であると感じました。

行程

静岡駅北口(午前9時集合) → 大河内砂防堰堤(国土交通省静岡河川事務所説明) → 大谷崩(国土交通省静岡河川事務所説明) → 昼食 → 赤水の滝 → 横山急傾斜地崩壊対策施設(静岡県説明) → 静岡駅北口(午後4時解散)



大谷崩れを背景に



横山急傾斜施設の説明の様子

「丸子芹が谷町地区」砂防サポートプログラム調印

12月15日(水)、静岡市駿河区丸子芹が谷町自治会防災対策委員会と静岡土木事務所は、砂防サポートプログラムに関する合意書の調印式を開催しました。

調印式には、丸子芹が谷町自治会防災対策委員会の21名が出席し、委員会代表の松川委員長と、静岡土木事務所の井上所長により、調印が行われました。

今回の合意書には、町内にある全ての砂防関係施設(砂防堰堤3基、急傾斜地崩壊対策施設7ヶ所)について、清掃・美化活動だけでなく、日常の点検や異常の通報、不法占用への対策などの活動が盛り込まれております。

なお、この調印により、県下では全部で6件の砂防サポートプログラムを実施することになります。



調印式参加者

市町等砂防担当職員研修

11月11・12日、県内市町の砂防担当職員、県土木事務所職員を対象にした砂防関係事業全般の講習及び現場研修を岐阜県で開催し、18名の方に参加をいただきました。

初日は、事務研修として、①土砂災害についての最近の話題と砂防事業について②急傾斜・地すべり事業及び土砂災害防止法について③土砂災害警戒情報から警戒避難体制についての3本柱で、砂防課職員が講師となり講習会を行いました。講習会終了後、日頃触れ合うことの少ない他市町や土木事務所職員の方との意見交換会が和やかな雰囲気の中、開催されました。

2日目は、岐阜県揖斐土木事務所の協力のもと、大津谷砂防環境整備事業等の大津谷公園キャンプ場や平成20年9月2日～3日の豪雨により発生した大津谷・コウトケ谷の災害関連緊急砂防事業、平成18年5月に発生した東横山地すべり対策工事等を視察しました。

参加者からは、「現場の規模がとても大きいと感じました」や「近年に被害を受けている箇所が見ることができてよかった」など多くの貴重な意見、感想が寄せられました。

日程

11月11日(木)

講習会 ・土砂災害についての最近の話題と砂防事業について
 ・急傾斜・地すべり事業及び土砂災害防止法について
 ・土砂災害警戒情報から警戒避難体制について

11月12日(金)

現場視察 ・大津谷災害関連緊急砂防事業等と大津谷公園キャンプ場
 ・下谷直轄砂防災害関連緊急事業
 ・東横山災害関連緊急地すべり対策事業等
 ・滝谷県単砂防環境整備事業等と養老公園

参加市町等

静岡市、浜松市、伊東市、島田市、富士市、掛川市、藤枝市、湖西市、伊豆市、菊川市、熱海土木事務所、静岡土木事務所、島田土木事務所、事務局



現場研修の様子



講習会の様子



東横山地すべり対策事業と損斐川



滝谷県単砂防環境整備事業

大津谷災害関連緊急砂防事業視察

平成20年9月2日昼過ぎ～3日明け方にかけての岐阜、西濃を中心とした大雨により大量の土砂が土石流として流出し、砂防施設を破壊すると共に流路内に堆積しました。

砂防設備災害復旧事業による被災施設復旧と共に、依然として残る不安定土砂のために、災害関連緊急砂防事業にて大津谷及びその支川コウトケ谷に砂防ダムを1基ずつ砂防堰堤を整備したということです。



大津谷災害関連緊急砂防事業現場

東横山災害関連緊急地すべり対策事業現場

平成18年5月に岐阜県揖斐川町東横山地区において高さ145m、幅約150m、総移動土砂量約26.5万 m^3 の地すべりによる崩落が発生しました。

早急に地すべり変動を鎮静化させるため、地すべり発生直後から現地調査を行い応急復旧工事を実施し、その後、恒久対策工事選定し工事を行ったということでした。

揖斐土木事務所の方の事前準備により撮影された崩壊映像の上映により、被災時の状況と現在の状況を見ることができました。なお、映像はインターネットで配信されています。



東横山災害関連緊急地すべり対策事業

参加者の声



■ 静岡市建設局土木部河川課 副主幹 中司 淳さん

初日は砂防事業・急傾斜地事業・土砂災害防止法・土砂災害警戒情報・警戒避難体制等の講習でしたが、自分の知らなかったことが多く、市の土木防災担当としてもっと勉強しなければいけないと感じました。

2日目の現場研修で「東横山地すべり対策工事」を見学しましたが、初日バス車内で被災前と発災時の現場状況をDVDで観ていたので、こういう災害にはどんな対策をするのということが、わかりやすく理解できてよかったです。

また、意見交換会では他都市の災害対応や土砂災害に関する考え方を聴くことができ、有意義な時間になりました。今回知り合えた参加者のみなさんと情報交換するなどして、連携して土砂災害に備えていきたいと思います。

■ 浜松市土木部河川課 主任 池島 伸彦さん

研修1日目、大垣市に向かうバス内では、研修場所である東横山地すべりの瞬間を捉えた映像や深層崩壊についてのビデオの上映があり、有効に過ごすことができました。

到着後、静岡県砂防課職員の方々から近年の土砂災害の傾向と砂防事業、土砂災害防止法、土砂災害警戒情報と警戒避難体制等についての講演があり、ソフト対策の重要性を痛感した。

研修2日目、最初に見学した大津谷災害関連緊急砂防事業の現場では、町による公園整備が進んでおり親水と砂防がみごとに調和している風景に感動した。岐阜県職員の方からは、現地発生土を利用して砂防堰堤を構築し、短期施工・コスト縮減に成功した貴重なお話を聞くことができた。

東横山災害関連緊急地すべり対策事業の現場では、パトロールで小さな変状を見逃さなかったことや早期に動態観測を開始し地すべり発生を予測できたことが、被害拡大を防ぎ早期復旧につながったことを学んだ。

研修会は、砂防を担当している方々と意見交換ができ有意義であった。今後は研修で得られた知識や人脈を有効に活用していきたい。

「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」策定状況

市町長が、適時適切な避難勧告等の発令が行えるよう、県内各市町に対し「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」策定のための説明会・検討会を平成21年度より危機管理部を中心に行ってきました。砂防課も土砂災害編の策定にあたり、市町の検討会等に参画し、技術的な助言を行っています。

『避難勧告等の判断・伝達マニュアル』策定状況(平成22年11月時点) (平成22年11月危機管理部調査)

策定済み	三島市、裾野市、小山町、富士宮市、富士市、掛川市、袋井市、浜松市、湖西市（9市町）		
策定中	18市町	未着手	8市町

台風9号(平成22年9月8日)における小山町の警戒避難対応 ～ 土砂災害による犠牲者ゼロ!! ～

9月8日11時過ぎに福井県敦賀市付近に上陸した台風9号は、中部地方を南東に進み、同日15時に静岡県で熱帯低気圧に変わった。この台風の接近により、県内では東部を中心に猛烈な雨が降り続き、小山町では時間最大118mm、10時間で累積490mmを観測（小山雨量計）するなど記録的な大雨になった。

この大雨により小山町では全壊7棟、半壊31棟の家屋被害があったにも関わらず、町の迅速な防災対応、住民の防災意識の高さと地域のつながりにより、土砂災害による犠牲者がゼロであった。

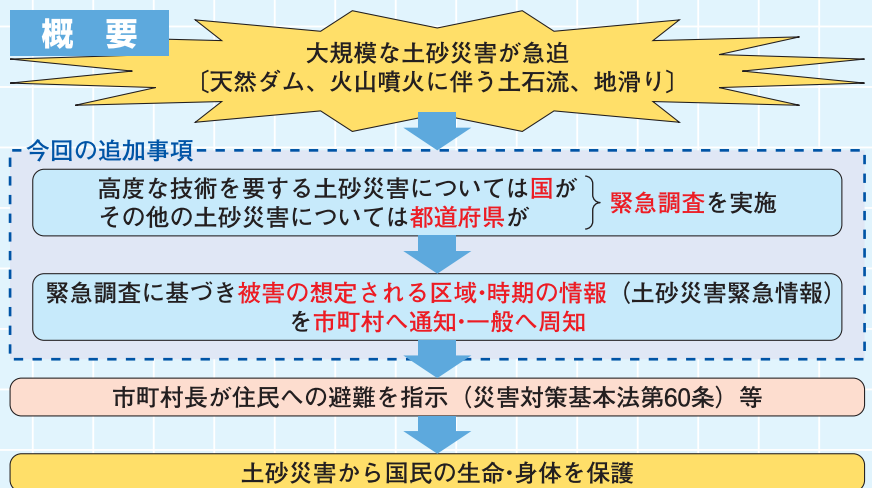
小山町では、平常時から訓練や会議等を通じて、町と自主防災会代表者等と緊密に連携をとり、防災に対する共通意識を構築していた。このような常日頃の備えが、いざという時に大災害から住民の尊い命を守る要因となった。

平成22年9月8日の小山町の防災対応

時間	気象情報&町の体制	避難情報の発令状況
08:32	大雨警報発表（事前配備体制）	
09:47	災害警戒本部設置	
10:35	土砂災害警戒情報発表	
11:07	災害対策本部設置	
11:55	町指定避難所（3箇所）開設	全町に自主避難の勧告
13:50	第3分団に避難支援指示	藤曲坂下地区に避難勧告
14:10	・警察・消防署・消防団に避難支援指示 ・成美小・小山中を町指定避難所に追加 ・柳島地区に自衛隊を派遣し避難支援	藤曲・音淵・落合地区に避難勧告
14:13		八二塚地区に避難勧告
15:45		柳島地区に避難勧告
17:10		茅沼地区に避難勧告

土砂災害防止法の改正について

11月17日、平成22年通常国会において、土砂災害防止法の改正法案が成立しました。今回の改正は、岩手・宮城内陸地震等で多数の天然ダムが形成されたため、大規模な土砂災害が急迫している状況において、市町村が適切に住民の避難指示の判断等を行えるよう、国又は都道府県が緊急調査を行い、被害の想定される区域・時期の情報を提供するものです。今後、平成23年5月の法施行にあわせ、施行令の公布、基本指針告示、緊急調査マニュアルが策定される予定です。

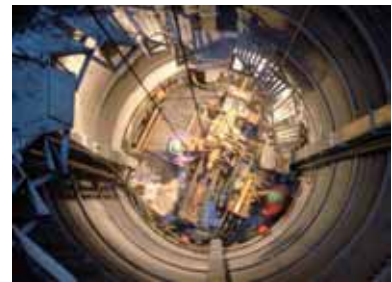


富士砂防事務所で実施されている、 由比地区地すべり対策事業についてご紹介します。

現在、由比地区（静岡市清水区由比）には、日本の大動脈である国道1号・東名高速道路・JR東海道本線といった重要な交通網が集中しており、この地域で地すべりが発生した場合、東西を結ぶ交通網が寸断されることによって生じる経済被害・人的被害は計り知れないものがあります。

この由比地区（サッタ山）において、静岡県では昭和45年度より防災対策を実施してきましたが、大規模地すべり地形が確認されたことや、中央防災会議の東海地震想定地震発表（震度6強～震度7）を受け、豪雨や東海地震等による地すべりの発生が懸念されるため、平成17年度より国土交通省による直轄事業が始まりました。

これまで対策工事として、地すべり発生の主要因である地すべり土塊の中に溜まっている地下水を抜く集水井工や横ボーリング工といった抑制工を実施してきました。今後は、更に深い位置から地下水を抜く排水トンネルや地すべりの動きを直接的に止める抑止工として、深礎杭に着手していく予定です。



集水井の内部



集水井天蓋部



薩埵峠から見た事業区域

東海地区直轄事務所長・砂防担当課長会議が開催される

11月15日、東海地区直轄事務所長・砂防課長会議が名古屋市内で開催されました。会議には、国土交通省砂防部砂防計画課の栗原砂防計画調整官、中部地方整備局河川部の村上地域河川調整官をはじめとした担当官、東海地区の直轄事務所長と各県砂防主管課長が出席し、土砂災害防止法の改正に伴う国・県の対応、大規模土砂災害への対応などについて、活発な意見交換が行われました。

土砂災害防止法に関するブロック会議が開催される

10月25日、中部ブロック土砂災害防止法検討会議が愛知県産業貿易館（名古屋市）で開催されました。会議には、国土交通省砂防部砂防計画課の吉村課長補佐をはじめ本省砂防部、中部地方整備局、東海4県の担当者が出席し、「土砂災害防止法の政策レビューに向けた現状分析」や「国土交通省より発出した通知の対応状況について」等を議題に各県による事例発表の後、各県が抱える課題などについて議論しました。

砂防学会シンポジウムが開催される

10月27・28日、第42回(社)砂防学会シンポジウムが、「花崗岩地帯の土砂災害の特徴とその対策」をテーマに山口県防府市で開催されました。シンポジウムでは、平成21年7月の防府市で起きた豪雨災害や花崗岩地帯での土砂災害の特徴について話題提供やパネルディスカッションが行われました。

また、現地見学会では、既設堰堤が効果を発揮した八幡谷溪流や特養老人ホームが被災した上田南川をはじめ、石原南川、剣川、素川の土石流の状況や復旧状況について見学し、理解を深めました。



砂防学会シンポジウムの様子

東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議を開催

10月28・29日、中部地方整備局地域河川課の増田係長をはじめ東海4県の担当者による、東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議を静岡県で開催しました。28日の会議では、施設の維持管理計画などについて活発な意見交換が行なわれ、また29日の現地研修では、NEXCO中日本で施工している新東名高速の大規模地すべりの現場などを視察し、有意義な会議となりました。



大規模地すべり現場

全国地すべりがけ崩れ協議会理事会を開催

11月18日、本県において、平成22年度全国地すべりがけ崩れ対策協議会第2回理事会が開催されました。

理事会では、来年度の事業計画や国への事業促進要望等の議案が原案どおり可決され、その後行われた国土交通省との意見交換会では、本省砂防部の浦保全調整官から、平成23年度の予算要求の概要や11月中旬に行われた事業仕分けの結果等についての情報提供がありました。

また、19日には、砂防関係事業の現地視察として、静岡市清水区大内地区における里山づくりの取り組みや富士砂防事務所の協力により由比直轄地すべり対策事業の現地見学を行いました。



森山交通基盤部長の挨拶



由比地すべり対策事業現地見学会の様子

平成22年度静岡県砂防・治山連絡調整会議を開催

12月20日、砂防事業と治山事業が連携して効率的に事業を実施するため、砂防・治山連絡調整会議を静岡県庁別館で開催しました。

会議には、国土交通省中部地方整備局、静岡河川事務所、沼津河川国道事務所、富士砂防事務所、関東森林管理局、静岡森林管理署、伊豆森林管理署、天竜森林管理署、大井川治山センター、県砂防課・森林保全課の各機関が出席し、来年度以降予定している事業の調整を行いました。



静岡県砂防治山連絡会議

砂防研究報告会が開催される

10月5・6日、第23回（平成22年度）砂防研究報告会が砂防会館別館で開催され、関係機関から122人の参加がありました。報告会では、南砂防計画課長の講話に続き、砂防関係研究機関の概要説明、事例・調査報告が行われ、その後、各分科会に分かれて討論を行いました。第三分科会『土砂災害の警戒避難等における技術的課題について』では、警戒避難に対する各県の先進的な取り組みの情報を共有しながら、技術的な課題やその対応方策について議論しました。

東海地区砂防担当者会議が開催される

11月25・26日、平成22年度東海地区砂防担当者会議が愛知県北設楽郡豊根村で開催されました。

25日の会議では、国土交通省河川局砂防部より、土砂災害防止法の改正された内容やH22年災害関連緊急事業の採択状況、留意点について説明がありました。また、部分透過型砂防堰堤の設計上の留意事項について等、各県から提案された議題について議論を行い、理解を深めました。

26日は、平成12年9月の東海豪雨で被災を受け、災害関連緊急砂防事業で砂防堰堤の整備を行った箇所や、交付金事業で砂防堰堤を整備中の現場を見学しました。

全国がけ崩れ対策協議会 研究発表大会が開催される

10月21・22日、全国地すべりがけ崩れ対策協議会第64回研究発表大会が、栃木県宇都宮市で開催されました。技術研修会は、国土交通省河川局砂防部保全課の林課長補佐が講演する予定でしたが、20日に奄美地方で発生した豪雨災害の対応のため急遽欠席となり、事務局により進行されました。研究発表大会では、研究機関や各県の担当者から15件の発表があり、それぞれ発表について活発な意見交換が行われ、ハード・ソフトが一体となった土砂災害対策の必要性について理解を深めました。

平成23年度「(社)日本地すべり学会発表会及び見学会」の日程が決定 平成23年8月30日～9月2日 会場:グランシップ及びあざれあ(静岡市)

12月7日、平成23年度「(社)日本地すべり学会第50回地すべり研究発表会及び現地見学会」の第1回実行委員会が静岡市内で開催され、下記のとおり日程及び会場が決定されました。県民講演会については、一般参加が可能です。今後、詳細な日程が決定され次第、広報を行ってまいります。

- ・県民講演会（あざれあ） 8月30日(火)
- ・研究発表会（グランシップ） 8月31日(水)～9月1日(木)
- ・現地見学会 9月2日(金)

お知らせコーナー

第51回 砂防および地すべり防止講習会

砂防および地すべり対策業務を担当する中堅職員の実施並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

日時：平成23年3月10日・11日

会場：砂防会館別館1階「利根」

参加費：5,000円

※市町職員の参加の場合は、参加費を静岡県支部が負担します。

主催：全国治水砂防協会 TEL (03)3261-8386

問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054)221-3042



平成23年の 砂防関係の 主な行事



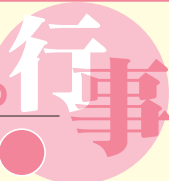
●支部活動予定

1月	31日	静岡県砂防ボランティア協会総会及び研修会
5月	25日	静岡県支部通常総会（静岡市）
6月	5日	土砂災害に対する全国統一防災訓練
	1～7日	がけ崩れ防災週間
	1～30日	土砂災害防止月間
	中旬	砂防フェスティバル
8月	下旬	市町長等砂防事業県外視察
11月	初旬	市町等砂防担当職員研修

●協会本部活動予定

3月	10・11日	砂防および地すべり防止講習会（砂防会館）
5月	17日	評議員会・参与会（砂防会館）
	18日	第75回通常総会（砂防会館）
11月	28日	参与会（砂防会館）
	29日	土砂災害から人命と地域を守る砂防会議（砂防会館）

その他の



平成22年度

10月	7日	国際砂防フォーラム（富山県）
	15日	2010火山砂防フォーラム（群馬県）



【表紙写真】

春風薫る（撮影地：岩本山）

篠原 佳子さん（富士市）

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の富士山の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。



集・後・記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、夏の猛暑や豪雨など、気温や自然災害に関する出来事が目立ちました。県内でも9月の台風9号により小山町で土砂崩れや砂防施設崩落などが相次ぎ、多大な被害をもたらした、砂防事業の重要性を痛感する年でした。

本年も、土砂災害防止に向けて、「皆様のお役にたつ見やすくわかりやすい誌面づくり」に努めてまいります。

年頭にあたり、会員皆様方の御多幸を祈念するとともに、本年も砂防だよりをご愛読いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke350/index.html>